

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年11月1日
【四半期会計期間】	第59期第2四半期（自 2023年6月21日 至 2023年9月20日）
【会社名】	未来工業株式会社
【英訳名】	MIRAI INDUSTRY CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 山田 雅裕
【本店の所在の場所】	岐阜県安八郡輪之内町楡保1695番地の1
【電話番号】	(0584)68-1200
【事務連絡者氏名】	常務取締役 中島 靖
【最寄りの連絡場所】	岐阜県安八郡輪之内町楡保1695番地の1
【電話番号】	(0584)68-1200
【事務連絡者氏名】	常務取締役 中島 靖
【縦覧に供する場所】	未来工業株式会社東京支店 (東京都中央区日本橋本町四丁目11番5号) 未来工業株式会社名古屋支店 (名古屋市東区泉一丁目15番17号) 未来工業株式会社大阪支店 (大阪市天王寺区空堀町15番6号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第58期 第2四半期連結 累計期間	第59期 第2四半期連結 累計期間	第58期
会計期間		自2022年 3月21日 至2022年 9月20日	自2023年 3月21日 至2023年 9月20日	自2022年 3月21日 至2023年 3月20日
売上高	(百万円)	19,141	21,689	39,568
経常利益	(百万円)	1,875	3,323	4,152
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益	(百万円)	1,241	2,252	2,742
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,249	2,564	3,077
純資産額	(百万円)	48,579	52,090	49,963
総資産額	(百万円)	62,338	64,959	64,226
1株当たり四半期(当期)純利 益	(円)	72.17	130.89	159.40
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	77.1	79.2	76.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,716	775	4,000
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,055	1,404	1,974
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	267	264	979
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	(百万円)	20,932	20,691	21,584

回次		第58期 第2四半期連結 会計期間	第59期 第2四半期連結 会計期間
会計期間		自2022年 6月21日 至2022年 9月20日	自2023年 6月21日 至2023年 9月20日
1株当たり四半期純利益	(円)	41.74	70.34

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 1株当たり四半期(当期)純利益の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数については、株式付与E S O P信託口が所有している当社株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績に関する分析

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症が「5類」へ移行されたことにより経済活動の正常化が緩やかに進みました。設備投資等に回復傾向の動きがみられたものの、個人消費の伸び悩みやウクライナ問題の長期化、円安の進行等により先行き不透明な状況で推移しております。

当社グループの事業関連である住宅建築業界では、政府による住宅取得支援策や低水準の住宅ローン金利等が継続しているものの、新設住宅着工戸数は分譲住宅をはじめとして弱含みで推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは継続的な新製品の市場投入に加え、活発な営業活動を展開してまいりました。当第2四半期連結累計期間におきましては、電材及び管材の価格改定を6月度より行ったこと等により、売上高は前年同四半期に比べ増収となり、第2四半期の売上高としては過去最高額を更新いたしました。利益につきましては、原材料単価の上昇が収益を圧迫したものの増収効果により、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益ともに前年同四半期に比べ増益となり、第2四半期の営業利益及び経常利益としては過去最高額を更新いたしました。

セグメントの業績は次の通りであります。

#### (売上高)

当社グループの連結売上高は、全てのセグメントにおいて増加したことにより、21,689百万円と前年同四半期に比べ2,547百万円(13.3%)の増収となり、第2四半期の売上高としては過去最高額を更新いたしました。

電材及び管材につきましては、建築工事現場において技能労働者の不足が叫ばれるなか、作業の省力化を目指した製品づくりとともに、さまざまな現場に適した多種多様な製品展開を進めることにより、業界の支持を得ております。電材では、施工性に優れた合成樹脂製可とう電線管「ミラフレキシS S」等が堅調に推移したことに加え、硬質ビニル電線管「J管」や地中埋設管「ミラレックスF」とその附属品等が増加したことにより、電線管類及び附属品が増加しました。また、価格改定を6月度より行ったこと等により、売上高が16,917百万円と前年同四半期に比べ2,292百万円(15.7%)の増収となりました。

配線器具につきましては、電材ルートへの活発な営業活動により、デザインを一新した「J・ワイドスリムスクエア」等の配線器具が堅調に推移した結果、売上高が3,257百万円と前年同四半期に比べ146百万円(4.7%)の増収となりました。

その他につきましては、「省力化機械及び樹脂成形用金型」が増加した結果、売上高が1,513百万円と前年同四半期に比べ108百万円(7.8%)の増収となりました。

#### (営業利益)

当社グループの連結営業利益は、原材料単価の上昇が収益を圧迫したものの増収効果により、3,253百万円と前年同四半期に比べ1,431百万円(78.6%)の増益となりました。

電材及び管材の営業利益は、原材料単価の上昇が収益を圧迫したものの増収効果により3,158百万円と前年同四半期に比べ1,498百万円(90.3%)の増益となりました。

配線器具の営業利益は、増収効果に加え高付加価値製品の売上比率が増加したものの、原材料単価の上昇に加え人件費の増加等により94百万円と前年同四半期に比べ92百万円(49.7%)の減益となりました。

その他の営業利益は、増収効果等により339百万円と前年同四半期に比べ68百万円(25.1%)の増益となりました。

#### (経常利益)

当社グループの連結経常利益は、営業利益と同様の要因により3,323百万円と前年同四半期に比べ1,447百万円(77.2%)の増益となりました。

#### (親会社株主に帰属する四半期純利益)

親会社株主に帰属する四半期純利益は、2,252百万円と前年同四半期に比べ1,011百万円(81.5%)の増益となりました。

(2) 財政状態に関する分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて732百万円増加し、64,959百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金が733百万円減少、受取手形、売掛金及び契約資産が481百万円増加、有形固定資産が437百万円増加、投資有価証券が398百万円増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて1,395百万円減少し、12,868百万円となりました。その主な要因は、電子記録債務が2,012百万円減少、未払法人税等が228百万円増加、流動負債のその他が200百万円増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて2,127百万円増加し、52,090百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金が1,802百万円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ893百万円減少し、20,691百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、以下の通りであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は775百万円と前年同四半期に比べ941百万円の減少となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が3,323百万円と前年同四半期に比べ1,447百万円増加(資金増)、仕入債務の増減額が前年同四半期は360百万円の増加であったものが、当四半期は1,978百万円の減少となり、その差額2,339百万円使用した資金が増加(資金減)したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は1,404百万円と前年同四半期に比べ348百万円の増加となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が1,257百万円と前年同四半期に比べ273百万円増加(資金減)したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は264百万円と前年同四半期に比べ2百万円の減少となりました。これは主に、長期借入金の収入と返済の差額が62百万円と前年同四半期に比べ4百万円増加(資金増)、社債の発行と償還の差額が120百万円と前年同四半期に比べ12百万円増加(資金増)したことによるものであります。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発費の総額は、154百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在 発行数(株) (2023年9月20日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月1日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	25,607,086	25,607,086	東京証券取引所 (プライム市場) 名古屋証券取引所 (プレミアム市場)	単元株式数 100株
計	25,607,086	25,607,086	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2023年6月21日～ 2023年9月20日	-	25,607,086	-	7,067	-	8,736

(5)【大株主の状況】

2023年9月20日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
未来A.K.O株式会社	岐阜県大垣市鷹匠町11番地	2,382,000	13.23
名古屋中小企業投資育成株式会社	愛知県名古屋市中村区名駅南一丁目16番30号	1,495,000	8.30
清水琴子	岐阜県大垣市	1,109,806	6.16
未来社員持株会	岐阜県安八郡輪之内町楡俣1695番地の1	1,047,127	5.81
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	817,500	4.54
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口・75647口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	783,800	4.35
山田雅裕	岐阜県大垣市	765,569	4.25
山田智絵	岐阜県大垣市	765,000	4.24
清水陽一郎	岐阜県大垣市	708,969	3.93
大澤千緒	愛知県小牧市	652,500	3.62
計	-	10,527,271	58.47

- (注) 1. 上記のほか、自己株式が7,604,279株あります。
2. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数817,500株は、信託業務に係る株式数であります。
3. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口・75647口)は、「株式付与ESOP信託」に係る信託財産の委託先であります。なお、上記委託先が所有している当社株式は、四半期連結財務諸表において自己株式として表示しております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 7,604,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,966,800	179,668	(注)
単元未満株式	普通株式 36,086	-	-
発行済株式総数	25,607,086	-	-
総株主の議決権	-	179,668	-

- (注) 1. 上記「完全議決権株式(その他)」欄の株式数には、従業員インセンティブ・プラン「株式付与E S O P信託」の信託財産として、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与E S O P信託口・75647口)が所有している当社株式783,800株が含まれております。なお、上記委託先が所有している当社株式は、四半期連結財務諸表において自己株式として表示しております。
2. 上記「完全議決権株式(その他)」欄の株式数には、証券保管振替機構名義の株式が、1,100株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数11個が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月20日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
未来工業株式会社	岐阜県安八郡輪之内町楡俣1695番地の1	7,604,200	-	7,604,200	29.69
計	-	7,604,200	-	7,604,200	29.69

(注) 上記のほか、従業員インセンティブ・プラン「株式付与E S O P信託」の信託財産として、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与E S O P信託口・75647口)が所有している当社株式783,800株を、四半期連結財務諸表において自己株式として表示しております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。なお、当四半期累計期間後、当四半期報告書提出日までの役職の異動は、次の通りであります。

役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
常務取締役兼経理部長	常務取締役	川瀬 渉	2023年9月21日

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年6月21日から2023年9月20日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年3月21日から2023年9月20日まで）に係る四半期連結財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	23,094	22,360
受取手形、売掛金及び契約資産	7,531	8,013
電子記録債権	4,236	4,387
商品及び製品	4,418	4,412
原材料及び貯蔵品	1,498	1,634
その他	1,590	1,609
貸倒引当金	4	2
流動資産合計	42,366	42,414
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,069	4,945
機械装置及び運搬具(純額)	2,627	2,624
土地	4,643	4,643
建設仮勘定	675	1,212
その他(純額)	628	655
有形固定資産合計	13,644	14,082
無形固定資産		
投資その他の資産	146	127
投資有価証券	1,155	1,553
繰延税金資産	1,225	1,108
退職給付に係る資産	1,278	1,285
長期預金	4,000	4,000
その他	509	487
貸倒引当金	99	100
投資その他の資産合計	8,069	8,334
固定資産合計	21,860	22,544
資産合計	64,226	64,959
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,118	3,152
電子記録債務	4,212	2,200
短期借入金	45	45
1年内返済予定の長期借入金	184	249
未払法人税等	873	1,101
その他	3,454	3,654
流動負債合計	11,888	10,404
固定負債		
長期借入金	19	16
再評価に係る繰延税金負債	60	60
株式付与引当金	1,154	1,140
役員退職慰労引当金	95	90
退職給付に係る負債	648	659
その他	396	495
固定負債合計	2,374	2,463
負債合計	14,263	12,868

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月20日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,067	7,067
資本剰余金	9,538	9,538
利益剰余金	48,672	50,475
自己株式	15,891	15,877
株主資本合計	49,387	51,204
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	193	485
土地再評価差額金	600	600
退職給付に係る調整累計額	400	375
その他の包括利益累計額合計	6	260
非支配株主持分	582	625
純資産合計	49,963	52,090
負債純資産合計	64,226	64,959

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月21日 至 2022年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月21日 至 2023年9月20日)
売上高	19,141	21,689
売上原価	12,266	13,198
売上総利益	6,875	8,490
販売費及び一般管理費		
運賃	1,124	1,155
貸倒引当金繰入額	1	0
役員報酬	130	128
給料及び手当	1,801	1,847
退職給付費用	62	60
株式付与引当金繰入額	29	-
役員退職慰労引当金繰入額	6	5
その他	1,896	2,040
販売費及び一般管理費合計	5,053	5,236
営業利益	1,821	3,253
営業外収益		
受取利息	6	6
受取配当金	18	29
保険事務手数料	2	2
作業くず売却益	8	8
受取手数料	7	12
その他	22	20
営業外収益合計	67	80
営業外費用		
支払利息	2	1
社債発行費	5	6
その他	6	3
営業外費用合計	13	11
経常利益	1,875	3,323
税金等調整前四半期純利益	1,875	3,323
法人税、住民税及び事業税	637	1,003
法人税等調整額	40	23
法人税等合計	596	1,027
四半期純利益	1,278	2,296
非支配株主に帰属する四半期純利益	37	43
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,241	2,252

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月21日 至 2022年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月21日 至 2023年9月20日)
四半期純利益	1,278	2,296
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19	292
退職給付に係る調整額	9	25
その他の包括利益合計	29	267
四半期包括利益	1,249	2,564
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,211	2,520
非支配株主に係る四半期包括利益	37	43

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月21日 至 2022年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月21日 至 2023年9月20日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,875	3,323
減価償却費	982	928
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	0
株式付与引当金の増減額(は減少)	40	13
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	27	4
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	16	5
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	31	37
受取利息及び受取配当金	25	36
支払利息	2	1
売上債権及び契約資産の増減額(は増加)	675	632
棚卸資産の増減額(は増加)	275	129
仕入債務の増減額(は減少)	360	1,978
その他	16	98
小計	2,260	1,524
利息及び配当金の受取額	25	36
利息の支払額	2	1
法人税等の支払額	667	783
補助金の受取額	100	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,716	775
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	186	285
定期預金の払戻による収入	128	126
有形固定資産の取得による支出	984	1,257
有形固定資産の売却による収入	2	1
その他	15	10
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,055	1,404
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	230	260
長期借入金の返済による支出	172	197
社債の発行による収入	194	193
社債の償還による支出	87	73
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	450	450
その他	18	3
財務活動によるキャッシュ・フロー	267	264
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	394	893
現金及び現金同等物の期首残高	20,538	21,584
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,932	20,691

【注記事項】

( 会計方針の変更 )

( 時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用 )

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」( 企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。 ) を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

( 追加情報 )

( 従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引 )

当社は、当社従業員の帰属意識の醸成や経営参画意識を持たせ、長期的な業績向上や株価上昇に対する意欲や士気の高揚を図るとともに、中長期的な企業価値向上を図ることを目的として、従業員インセンティブ・プラン「株式付与E S O P信託」を導入しております。

(1) 取引の概要

当社が当社従業員のうち一定の要件を充足する者を受益者として、当社株式の取得資金を拠出することにより信託を設定します。当該信託は予め定める株式交付規程に基づき当社従業員に交付すると見込まれる数の当社株式を、当社から取得します。その後、当該信託は、株式交付規程に従い、信託期間中の従業員の勤続年数に応じた当社株式を、退職時に無償で従業員に交付します。当該信託により取得する当社株式の取得資金は全額当社が拠出するため、従業員の負担はありません。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度1,180百万円、793千株、当第2四半期連結会計期間1,166百万円、783千株であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月21日 至 2022年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月21日 至 2023年9月20日)
現金及び預金勘定	22,347百万円	22,360百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	1,915	2,169
取得日から3か月以内に償還期限の 到来する短期投資(有価証券)	500	500
現金及び現金同等物	20,932	20,691

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年3月21日 至 2022年9月20日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月16日 取締役会	普通株式	450	25	2022年3月20日	2022年5月30日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、株式付与E S O P信託口が所有する当社株式に対する配当金20百万円が含まれております。

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年10月25日 取締役会	普通株式	450	25	2022年9月20日	2022年11月28日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、株式付与E S O P信託口が所有する当社株式に対する配当金19百万円が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年3月21日 至 2023年9月20日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年5月15日 取締役会	普通株式	450	25	2023年3月20日	2023年5月29日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、株式付与E S O P信託口が所有する当社株式に対する配当金19百万円が含まれております。

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年10月26日 取締役会	普通株式	900	50	2023年9月20日	2023年11月27日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、株式付与E S O P信託口が所有する当社株式に対する配当金39百万円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年3月21日 至 2022年9月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	電材及び 管材	配線器具	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,625	3,111	17,737	1,404	19,141
セグメント間の内部 売上高又は振替高	114	-	114	1,966	2,081
計	14,739	3,111	17,851	3,371	21,222
セグメント利益	1,659	186	1,846	271	2,117

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、省力化機械及び樹脂成形用金型事業、電気通信事業、ケーブルテレビ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
 主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,846
「その他」の区分の利益	271
セグメント間取引消去	14
全社費用(注)	310
棚卸資産の調整額	0
有形固定資産の調整額	0
無形固定資産の調整額	0
四半期連結損益計算書の営業利益	1,821

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。



当第2四半期連結累計期間(自 2023年3月21日 至 2023年9月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	電材及び 管材	配線器具	計		
売上高					
外部顧客への売上高	16,917	3,257	20,175	1,513	21,689
セグメント間の内部 売上高又は振替高	119	0	119	2,121	2,241
計	17,037	3,258	20,295	3,634	23,930
セグメント利益	3,158	94	3,252	339	3,591

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、省力化機械及び樹脂成形用金型事業、電気通信事業、ケーブルテレビ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,252
「その他」の区分の利益	339
セグメント間取引消去	19
全社費用(注)	327
棚卸資産の調整額	0
有形固定資産の調整額	29
無形固定資産の調整額	0
四半期連結損益計算書の営業利益	3,253

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自2022年3月21日 至2022年9月20日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	電材及び 管材	配線器具	計		
収益の認識時期					
一時点で移転される財	14,625	3,111	17,737	580	18,317
一定の期間にわたり移転される財	-	-	-	824	824
顧客との契約から生じる収益	14,625	3,111	17,737	1,404	19,141
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	14,625	3,111	17,737	1,404	19,141

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、省力化機械及び樹脂成形用金型事業、電気通信事業、ケーブルテレビ事業等を含んでおります。

当第2四半期連結累計期間(自2023年3月21日 至2023年9月20日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	電材及び 管材	配線器具	計		
収益の認識時期					
一時点で移転される財	16,917	3,257	20,175	701	20,877
一定の期間にわたり移転される財	-	-	-	811	811
顧客との契約から生じる収益	16,917	3,257	20,175	1,513	21,689
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	16,917	3,257	20,175	1,513	21,689

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、省力化機械及び樹脂成形用金型事業、電気通信事業、ケーブルテレビ事業等を含んでおります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月21日 至 2022年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月21日 至 2023年9月20日)
1株当たり四半期純利益	72円17銭	130円89銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,241	2,252
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,241	2,252
普通株式の期中平均株式数(株)	17,197,599	17,213,420

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数については、株式付与E S O P信託口が所有している当社株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。  
 1株当たり四半期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前第2四半期連結累計期間805,583株 当第2四半期連結累計期間789,500株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2023年10月26日の取締役会において、次の通り剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額・・・・・・・・・・900百万円

(ロ) 1株当たりの金額・・・・・・・・・・50円

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・・・・・・2023年11月27日

(注) 2023年9月20日最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年10月31日

未来工業株式会社

取締役会 御中

仰星監査法人

名古屋事務所

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 浅井 孝孔

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 木全 泰之

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている未来工業株式会社の2023年3月21日から2024年3月20日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年6月21日から2023年9月20日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年3月21日から2023年9月20日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、未来工業株式会社及び連結子会社の2023年9月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。